

非常ベルが鳴り始めた

特集 石岡の医療

平成 29 年 12 月、市内の産科の分娩の取り扱いが終了しました。昨年生まれた市内の新生児は 456 人。人口が減っているからこそ、子どもを産み、育てていける環境は大切にしなければなりません。

今年度、市民を交えた医療懇談会を立ち上げ、地域医療を取り巻く課題を話し合いました。その結果を踏まえ、今後は、国・県、専門機関の専門職員を招き、具体的な解決策を策定する検討組織を立ち上げるという方向性が出されました。



石岡市民に「地域医療」について聞きました。 あなたが不安に思うことは？

市外病院に通院中の 70 代女性の場合

市内の病院でリウマチと診断され、専門の先生に診てもらうため、2 年前から 2 か月に 1 度、土浦市の病院まで通っています。まだ車の運転が出来ますが、今後、運転できなくなった後、どうやって通えばいいのか不安です。

まもなく出産予定の 30 代女性の場合

妊婦健診は市内の産科で診てもらっていますが、出産する病院は、道が混むと 40 分以上はかかる距離。病院からは、陣痛が来てから来るように言われているので、距離があると正直不安。市内で産めたらなあと思います。

救急車で搬送された 70 代男性の場合

先日、これまでに経験したことがないほどの胸の痛みを感じ、救急車を呼びました。市内の病院に搬送してほしいとお願いしましたが、市内の二次救急は全て受け入れ不可能とのことで、医師不足の状況をまざまざと感じました。

地域医療の問題は医師の確保だけでなく、「安心して医療を受けるには」という視点から、通院時のサポートなど総合的に考えていく必要があります。これまで 3 回にわたって、行われた医療懇談会の内容をご紹介します。
詳しくは、ページをめくった 4 ページから。